



発行所 独立行政法人国立病院機構 西別府病院  
 住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地  
 TEL 0977-24-1221(代表)  
 FAX 0977-26-1163(代表) 0977-76-7231(連携室)  
 ホームページアドレス <http://nishibeppu.hosp.go.jp>

# 謹賀新年

新春に昇る朝陽が西別府病院を照らし始める光景を見て、  
 令和3年が明るい一年になりますようにと撮った一枚です。

(撮影者：看護部長 中尾とよみ)

## 目 次

新年のご挨拶 .....	2	SASAE™開発に携わった	
新型コロナウイルス感染症流行を受けた		阿部主任臨床工学技士に聞く .....	7
当院の取り組みについて .....	5	2021年 新年の抱負 .....	8
コロナ禍でのクリスマス会 .....	6	日本重症心身障害学会Webセミナーを開催して .....	9

**理 念** 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

**基本方針** 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献  
 5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

**患者さまの権利** 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利  
 3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利  
 5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利



日本医療機能評価機構  
 認定番号: JCI1505号

## 新年のご挨拶



院長  
後 藤 一 也

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和2年は医療に限らず社会全体が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応に追われた1年でした。年末年始には新規感染者数や重症者数は増加の一途をたどり、さらに厳しい局面を迎えています。インフルエンザシーズンを迎え発熱者への対応も一段と難しさが増す状況です。

西別府病院は令和4年度から、増築した東病棟に病棟を集約して、セーフティーネット系医療により特化した医療サービスを提供していく方針です。病棟整備や人員配置についてはプロジェクトチームが主体となり準備しておりますが、あわせて医療や障害福祉サービスの充実も求められるところです。令和2年度の病院目標に掲げた「医療の質の向上を通じた地域医療への貢献」に沿って、残りの四半期で今後の足固めとなるような成果を上げたいと考えております。

病院目標や重点課題への取り組みについては、COVID-19への対応により、やや置き去りにされた感は否めません。しかし、COVID-19への対応を通して、感染対策のアナウンスや職場紹介など、ホームページや掲示物の見直しや、面会制限の対応なども多職種協働の成果でした。また、COVID-19における当院の役割である介護者が感染者となった障害児（者）の受け入れの際にも、関係職員が迅速、かつ適格に対応してくれたことも非常に有難く、頼もしく感じた次第です。

ただ、COVID-19第3波のピークが見えない中、当院がこれまで経験したインフルエンザやヒトメタニューモウイルス感染症などの病棟でのクラスターの経験からみても、予断の許さない状況がまだまだ続きます。院内感染対策について「やるべきことを実践する」を基本に、引き続き職員一丸となって取り組む所存です。

これからも、大分県や二次医療圏の医療需要に基づいて、職員全員の力を結集し、地域から求められる良質な医療サービスを提供し、あわせて人材育成、経営基盤の確立に努めるとともに、職員にとって、安全、安心で、働きがいのある職場とすることを目指します。

令和3年が皆様にとって、より良い1年となることを心よりお祈りするとともに、これからも当院へのご支援、ご指導を引き続き賜りますことをお願い申し上げ、私の新年の挨拶とします。

令和3年元旦

## 新年のご挨拶



副院長

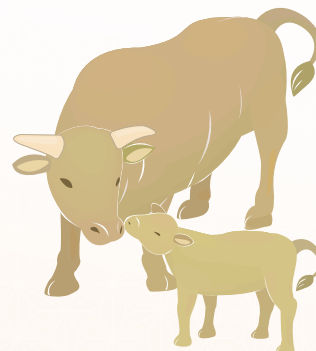
原 政 英

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当院周辺には急性期基幹病院が多数あり、地域の皆様にとって恵まれた医療環境だと言えるでしょう。その中であって当院は、セーフティネット医療を中心に地域に密着した病院として「常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供する」ことを理念に掲げ努力してまいりました。

昨年初頭に世界的に流行が始まった新型コロナウイルス感染症に対しては、当院でも擬似症患者の診療、受入れ病床の整備、個人防護具の確保、および職員の健康管理に努めてまいりました。患者様や利用者の皆様におかれましては外出外泊および面会の制限、入院時COVID-19スクリーニング検査等で不安やご不自由を強いることになり大変心苦しく思います。また、連携病院や連携施設、ならびに地元企業の皆様にもさらなるご協力ご支援を仰がなければならないことは言うまでもありません。

令和4年度には病院増築、病棟再編を控え、今年は当院にとって節目の年になります。はからずも昨年引き続きウイルス感染症対策に始まった新年となりましたが、同時に医療安全管理全体の見直しを行い、安心して利用できる病院作りを進めてまいります。ご理解ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



新年の  
ご挨拶

事務部長

馬 渡 永 年

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

令和2年度も残すところ3ヶ月となりました。昨年4月に政府からの「緊急事態宣言」が発出され、今年度は入院病棟における面会制限をはじめとする新型コロナウイルス感染症対策、発熱外来の設置、そして当院が大分県から要請を受けた濃厚接触者（障害児）の受入に職員が一丸となって取り組んだ1年となりました。また、TV会議システムの導入により、これまでは出張等で行われていた会議やセミナーもオンライン形式が中心となってきたことも大きな変革でありました。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当院の大きな目標の一つである東病棟増築整備もスケジュール的に若干の遅れを感じていますが、職員の皆さま、特に看護部のご協力により設計もほぼ完了しつつあります。一方で、非効率な運用（不採算医療）となっている結核医療に関しては、大分県の委託事業「結核地域医療体制強化事業」により令和2年4月に設置した結核診療支援センターの運用が事実上ストップしている状態となり、国難とも言えるコロナ禍では危惧されていたことではありますが、現時点では、病床縮小（削減）時期の繰り下げはやむを得ないものと判断していますので、引き続き、大分県との協議を重ねていくこととしています。

当院が担っているセーフティーネット系医療を安定的かつ継続的に提供していく診療体制を構築し、更に強化していくため、経営改善への積極的な取り組み等により経営基盤の安定化を図っていきたいと考えます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。～信頼と団結・決断と実行～

新年の  
ご挨拶

看護部長

中 尾 とよみ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症により生活様式も仕事のスタイルも変化を余儀なくされた年でした。あらためて、当たり前と思っていた日常がいかに有り難い事であったのかに気づかされました。

昨年12月別府市においても新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増加し、それに伴い濃厚接触者となった障害者を行政からの要請があり受け入れを行いました。初めての受け入れでしたが、事前の準備により大きな混乱はありませんでした。勤務調整等で協力いただいた皆さんに感謝致します。受け入れを通して課題もありましたので、今後の参考にしたいと思います。

もう一つの大きな取り組みとして、虐待防止があげられました。患者さん、ご家族の声に耳を傾けることを再度徹底するとともに、職員の関わり方についてアンガーマネジメントのオンライン研修を開催しました。また、虐待防止部会では、病院目標に沿ったより具体的な目標を各職場で掲げ接遇強化に取り組んでいますが、職員全体の意識付けと継続性が求められるところです。

令和3年は、令和4年度に予定している一般病棟の集約と東病棟増築に伴う病棟再編という大きな課題に取り組む1年間になります。患者さんに安心した療養環境を提供し、職員にとっても働きやすい職場となるよう取り組んで参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

# 新型コロナウイルス感染症流行を受けた当院の取り組みについて

## 1 来院者への健康チェック

院内でのウイルス感染発生防止のため、当院にご来院される方を対象に、正面玄関にて検温および健康チェック表による問診を行っております。10月には、よりスムーズなご案内のために、非接触型立体体温計顔認証システムを導入いたしました。

来院者の皆様にはお手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



## 2 オンライン面会

感染状況を考慮して病棟への立ち入りや対面面会を制限させていただいているところですが、患者さんのQOLの低下を少しでも抑制するため、東病棟の療養介護サービス利用者を対象に、タブレット端末を用いたオンライン面会を実施しております。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ではありますが、患者さんやご家族のご不安を少しでも解消できるよう、職員一同努力していく所存です。



## 3 リアルタイム濁度測定装置(LAMP法)の導入

当院研究検査科にリアルタイム濁度測定装置が納入され、10月より当院でも新型コロナウイルス遺伝子検査(LAMP法)の実施が可能となりました。また12月下旬からは、本機器を用いて、全ての入院患者様を対象とした入院時スクリーニング検査を行うこととなりました。

院内での感染拡大防止のため、本機器を十二分に活用していきたいと思っております。



## 4 発熱外来の開設

インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行への対応のため、12月1日(火)より発熱外来を開設いたしました。運用開始に先がけ、11月には来院者対応シミュレーションを行いました。また開設にあたり、陰圧ブースと検体採取シールドを導入しました。



## 5 職員の健康管理の徹底

当院に勤務する全職員は毎日出勤前に検温を行っております。発熱等の症状がある場合には、自宅待機を求めるなど、感染拡大防止のための対応を適宜取っております。

また「3つの密」を防ぐため、休憩室を分散する、従来狭い部屋で行っていた会議や研修の場所を比較的広い部屋に移すなどの対策を行っております。

### 新型コロナウイルス 対応5ヶ条

院内感染防止はあなたの実行力にかかっています

1. 出勤前の健康チェックと有症状時の連絡  
発熱や感冒症状などあれば職場長への連絡と相談！
2. 感染情報の確認  
地域や近隣地域の感染状況の把握
3. マスク装着・手洗い・手指消毒の徹底
4. 休憩、会議で3つの密を避ける
5. 感染機会を少なくする  
県をまたぐ移動や感染流行地への移動の回避  
会食、宴会、イベント等への参加自粛



# コロナ禍でのクリスマス会



療育指導室 保育士 林 田 正 樹

例年療育指導室では、療育指導室スタッフ全員が、各病棟で利用者が楽しめるプログラムを計画、実施してきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス流行により、感染防止の観点から密を避け、少人数の療育指導室スタッフと各病棟スタッフで行いました。

東1病棟は、12月15日、東2病棟は16日、東5病棟は23日にそれぞれクリスマス会を行いました。東1・2病棟では、午前の部で記念撮影、午後の部でプレゼント配りと分けて行い、東5病棟は午前中に記念撮影とプレゼント配りを同時に行いました。各病棟ともサンタクロースやクリスマスツリーに扮したスタッフが賑やかに各部屋を訪室し記念写真を撮ったり、病棟医長や病棟師長と共に、プレゼントを配って回ったりしました。面白いコスチュームに扮したスタッフと笑顔で楽しそうに写真を撮られる方や、ご自分のカメラで撮影される方もいらっしゃいました。東1・2病棟ではタイミング良く雪が舞い、ホワイトクリスマスとなりました。東5病棟では、病棟看護師長のアイデアでクリスマスツリーを各部屋に持って入り点灯式も行いました。キラキラと光るクリスマスツリーを見てピカピカと手で表現される方やうっとりとした表情で眺められる方もいらっしゃいました。利用者の皆さんは、例年とは異なる方法でも笑顔で楽しんでくださり、とてもありがたく感じました。また、体を動かして全身で喜びを表現される方や満面の笑みを浮かべられる方もおり、利用者の皆さんとスタッフが全員で楽しめる会にすることが出来ました。

今年は、新型コロナウイルス流行の影響で、利用者の皆さんが満足されるサービスの提供が出来たのか不安な1年でしたが、そのような1年の最後に利用者の皆さんの笑顔が多く見られることができ、少しは楽しい時間を提供出来たのでは

ないかと思っています。

東3・4病棟は、プレイルームにクリスマスツリーや星を飾り、少人数でのクリスマス会を行いました。今年は、病棟廊下にも「サンタの一年」をテーマにした装飾を行い、プレイルームまでお話をしながら散歩をしました。プレイルームでは、女神の格好をしたスタッフが登場するキャンドルサービス、クリスマスビンゴ、音楽鑑賞(スタッフによるハンドベル演奏)、記念撮影と4つの活動を行いました。利用者の皆さんは、キャンドルやクリスマスツリーに明かりが灯ると視線を向けたり、穏やかな表情を見せてくれたりしました。クリスマスビンゴでは、サイコロを転がし、リーチやビンゴになると声を出して喜ばれました。音楽鑑賞は、ゆったりとした雰囲気の中で、静かにハンドベルの音に耳を傾けられていました。最後に、クリスマスツリーやサンタクロースと一緒に記念写真を撮りました。プレイルームで参加が出来なかった利用者の方に対しては、病室で同じ活動を行いました。病室でもクリスマスの雰囲気が感じられる様にプレイルームと同様の装飾を行い、いつもとは違った病室の雰囲気に利用者の皆さんも笑顔を見せてくれていました。

今年は、例年のような大人数で賑やかなクリスマス会とはなりませんでした。少人数だからこそ、ゆっくりとした時間の中で一人ひとりがクリスマスを感じることが出来たのではないかと思います。今後も、状況に応じて活動の工夫を行い、利用者一人一人が楽しめるよう支援していきたいと思っています。

協力して下さった利用者の方々、医師、看護師、療養介助専門員の方々、本当にありがとうございます。2021年も明るく楽しく、穏やかな毎日が過ごせるように、これからも療育指導室へのご協力をよろしくお願いします。



## 取材記事

# SASAE™ 開発に携わった ..... 阿部主任臨床工学技士に聞く

令和2年9月29、30日に名古屋にて開催された第30回日本臨床工学会において、気管カニューレの追加固定用プレート「SASAE™」が医工連携 Award 学会長賞を受賞し、開発に携わった阿部主任臨床工学技士が表彰されました。今回、阿部主任臨床工学技士へ開発の裏話について伺ってみました。

主任臨床工学技士 阿部 聖司



開発を行うためには、はじめのアクションが大事だと思います。今回の開発では、まず誰にどのようにアプローチ、発信して、始まったのですか？これから異業種と連携を行う方の参考になると思います。

デザインの原案はすでに頭の中にあったので製作してくれそうなメーカーが当院を訪問したときに「作ってください」と依頼しました。少し時間はかかりましたが製品になりました。



当院で使用され、医療職からの実際の声はいかがですか？

医療職ではないのですが、患者さんの家族が何より喜んでくれました。頰の周りの傷が治ったとか（紐を締めすぎていたのですね）色々。看護師さんからは…どうなのでしょう（笑）



実は、もう少しだけ、こだわりがあったところがありますか？ 例えば、色など。

ほとんど今の形でこだわり抜いています（笑）実は製品として発売後も少しずつユーザーからの声を反映して修正を加えています！



SASAE は進化中なんですね。  
SASAE 以外に、今後開発を考えているものがあれば、言える範囲でこっそり教えてください。

作ってくれるメーカーがいればいいのですが、たとえば NPPV のマスクとヘッド・ギア。あとは呼吸器の架台の改良とかですね。



開発が実現した背景には、阿部主任臨床工学技士さんの日常からのアンテナや意識があつてのことだと思います。日常業務の中で強く意識されていることや重視されていることなどがあれば、ぜひ聞かせてください。

日常の「当たり前」を疑問に思うことです。それは唯一の正解なのかって。ひねくれていますので（笑）



最後に、阿部主任臨床工学技士さんにとって、理想の「臨床工学技士像」とは？

臨床工学技士という名の通り「臨床力」があるエンジニアです。せっかくの高額な医療機器も機能を使いこなせない現場の役に立ちません。しっかりと安全に使いこなし、皆の役にたつようになっていきたいです。

## 院長より一言

当院では100台を超える人工呼吸器が稼働し、臨床工学技士はなくてはならない存在です。阿部さんはその取りまとめ役として縦横無尽の働きぶりですが、その中でSASAEを考案、作成したことは当院にとって特筆すべきことでした。仕事納め式でも2020年の病院の重大ニュースとして紹介しました。



SASAE™ フランジ固定板

# 2021年 新年の抱負

2020年4月に入職された新採用者の方々へ、新年の抱負について聞いてみました。

## 二年目に向けて 中2病棟 中野 優香

疾患の学習や職場環境に慣れるのが精一杯でした。1年間で学んだことを活かし疾患や技術面だけでなくその人の全体像をとらえ個性に応じた看護ができるように努力していきたいです。

## 新年の抱負 中4病棟 松井 杏樹

今年は昨年に学んだ知識・技術を活かして患者様が安心・安全に過ごすことができるように看護を実践していきたいです。また、患者様を敬い笑顔で接し、日々学習することで病院での患者様の生活を支えたいと思います。

## 新人として 東1病棟 高尾 茜里

忙しい毎日ですが、先輩方にフォローしていただきながら日々の業務に励んでいます。今後は、2年目としての自覚と責任を持ち、報告・連絡・相談、ペア間でのコミュニケーションを行いながら業務に取り組んでいきます。

## 今年の目標 東2病棟 水野 こゆき

東2病棟で療養中の患者様の多くは言語的コミュニケーションがはかれません。患者様に真摯に向き合い、寄り添い言葉にならないニーズを感じ取る看護ができるようになりたいと思います。

## 看護師として責任ある行動をとっていききたい!!

東3病棟 森 菜々美

昨年は、緊張感や命と向き合う責任の重さを日々感じて過ごしました。まだ、目の前の事で精一杯ですが、「なぜ?」「何か違う」など疑問を持ち、根拠を持った看護を病棟の一員として実践していきたいと思います。

## 新年の抱負 東4病棟 飯田 香織

自ら表現できない患者の些細な変化に気づくことができ、報告・連絡・相談がスムーズに行える看護師を目指します。また私自身苦手なコミュニケーションが誰とでも図れるように笑顔で頑張ります。

## 個性に応じた看護を行う!

東5病棟 長岡 瑛美香

患者さんとより深く関わり、個性のある援助をする事です。患者さんの思いを把握するのに時間を要してしまうため、非言語的なサインを見逃さずコミュニケーションをとっていききたいです。

## 2021年の抱負 リハビリ科 浅井 一輝

私は昨年4月に入職しました。右往左往する私を職場全体がフォローして下さったことで、辿々しくありながらも業務を遂行できました。2年目となる今年は自立を目指し、すべきことを考え積極的に動こうと思います。

## 2021年の抱負 療育指導室 伊東 春香

社会人1年目では、先輩方に頼りきりで答えを求めるばかりでしたが、2021年は療養介護サービスの制度について知識を増やして理解し、利用者や家族の支援に自分の力で臨めるように努力したいと思います。

## 二年目の目標 管理課 立石 裕弥

昨年は、初めて行う業務ばかりでどうしてよいか分からないことが多く、先輩職員に、支えられながらなんとか乗り切ることができました。今年是一人で自立し担当する業務に責任を持ち、周りから信頼される職員になれるよう努力していきたいです。

院長より  
一言

一同に会することができなかった2020年でしたが、先輩を頼りながらも100字の中に込められた抱負から皆さんの成長と心意気を感じることができました。健康であることとともに2021年が皆さんにとって飛躍の1年となることを祈ります。



# 日本重症心身障害学会Webセミナー を開催して

庶務係長 小池由哉

去る令和2年12月12日(土)、日本重症心身障害学会の主催にて、「重症心身障害施設における新型コロナウイルス感染症対策セミナー」を開催いたしました。令和2年10月30日(金)～31日(土)に「第46回日本重症心身障害学会学術集会(会長:西別府病院院長 後藤一也)」の開催が予定されておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、やむなく中止となりました。本セミナーはその代わりとして、各施設の新型コロナウイルス感染症対策の参考としていただくことを目的として開催されました。セミナーはWeb会議システム(Zoom)を利用して開催され、当日のライブ配信に加えて、オンデマンドによる配信も行われました。

セミナーではまず特別講演として、日本感染症学会理事長の館田一博先生より、「新型コロナウイルス感染症:その特徴と効果的な感染対策」というテーマで、現在までに明らかになっているウイルスの特徴と感染予防策について講義していただきました。次に、旭中央病院の中村朗先生・自衛隊中央病院の青野茂昭先生より、それぞれ自施設における院内感染対策についてお話していただきました。

シンポジウムでは、まず「重症心身障害児(者)の受け入れ体制と医療連携」というテーマで、行政と医療機関それぞれの立場から、患者受け入れ体制の現状と課題について意見が交わされました。この中で、当院の感染管理認定看護師である梶川優副看護師長より、当院の患者受け入れ体制の構築について報告が行われました。2つ目のシンポジウムでは、「重症心身障害児(者)のQOLをいかに保つか」というテーマで、感染防止のための厳しい面会制限による患者さんの不安やストレスを軽減するための、オンライン面会などの取り組みについての報告が行われました。

Web配信という新しい形式によるセミナー開催でしたが、特に大きなトラブルもなく無事に終わることができました。演者・座長の先生方、セミナーをご視聴いただいた皆様、運営事務局の皆様の協力に深く感謝申し上げます。

